

PRAEVIDENTIA DAILY (8月26日)

昨日までの世界：新築住宅販売は弱い資産購入縮小開始シナリオへの影響は軽微か

先週金曜は、アジア・欧州時間までは概ね前日までのドル高基調が続いたが、NY 時間入り後に発表された米新築住宅販売件数が 39.4 万件と市場予想 (48.7 万件) を大きく下回り、かつ前月計数も大幅に下方修正 (49.7 万件→45.5 万件) されたことから、米長期債利回り低下と共にドルが反落、結果として前日終値対比では概ね横這い圏内となっている。ドル/円も、米新築住宅販売件数の発表前に一時 99.15 円の高値をつけていたが、指標発表を受けて 98.39 円へ下落した後は小反発し、結果的に 98.7 円と前日終値と同程度で引けている。

最近の米住宅関連指標をみると、NAHB 住宅市場指数や中古住宅販売は市場予想を上回り回復継続を示唆している一方、先週金曜の新築住宅販売のみならず、住宅着工・建設許可や毎週発表される住宅ローン申請件数は 5 月以降横這いか低下傾向が示されており、長期金利・住宅ローン金利上昇の悪影響が出ている可能性が示唆される。雇用をはじめとする米景気の全般的な回復が続いている中、年内の量的緩和縮小開始というシナリオ自体は変化していないとみられるものの、開始時期、縮小ペースや購入内訳に関する議論に影響が出るとの懸念を高める可能性はある。但し、これまでの長期金利上昇はまさに Fed の資産購入縮小の可能性を織り込んだもので、その実体経済、特に住宅市場への影響についても、当局もある程度は想定済みのはずだ。このため、長期金利上昇が実体経済、特に住宅市場に対して包括的に想定以上の悪影響を与えない限り、資産購入縮小の方向性自体は大きく変わらないだろう。

この間、ポンドは、英 2Q GDP 改定値が前期比+0.7%と市場予想 (+0.6%) を上回ったことから英中長期債利回りの上昇と共に対ドルで 1.56 ドル程度から一時 1.5638 ドルへ比較的大きく上昇したが、ほどなくして 1.5539 ドルへ倍以上下落、その後米新築住宅販売の予想比悪化を受けたドル安でポンドは持ち直したが 1.56 ドルは回復せず、対ポンドではドルの堅調さが残っている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と主な変動要因

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.02	-0.01	+0.01	-0.09	-0.07	+0.02	+0.4	+2.2	+1.3	+1.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+0.2	+0.03	+0.02	-0.01	+0.08	+0.02	-0.07	+0.4	+0.4	+1.0	-0.02
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.2	-0.01	-0.02	-0.01	+0.04	-0.03	-0.07	+0.7	+0.4	-0.5	+0.8
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.4	-0.01	-0.02	-0.01	+0.06	-0.01	-0.07	+0.7	+0.4	-0.5	+0.8
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	+0.04	+0.03	-0.01	+0.06	-0.01	-0.07	+0.7	+0.4		

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅 (%ポイント)。

前週比

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+1.2	+0.03	+0.04	+0.01	-0.03	-0.01	+0.02	+0.5	+0.1	-1.0	+0.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+0.4	+0.03	+0.07	+0.04	+0.06	+0.05	-0.01	-0.7	+0.5	+0.6	+0.06
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.7	-0.02	+0.01	+0.04	+0.09	+0.08	-0.01	-0.3	+0.5	-0.5	-0.6
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-3.7	-0.06	-0.02	+0.04	+0.10	+0.09	-0.01	-0.3	+0.5	-0.5	-0.6
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.4	-0.02	+0.02	+0.04	+0.01	+0.00	-0.01	-0.1	+0.5		

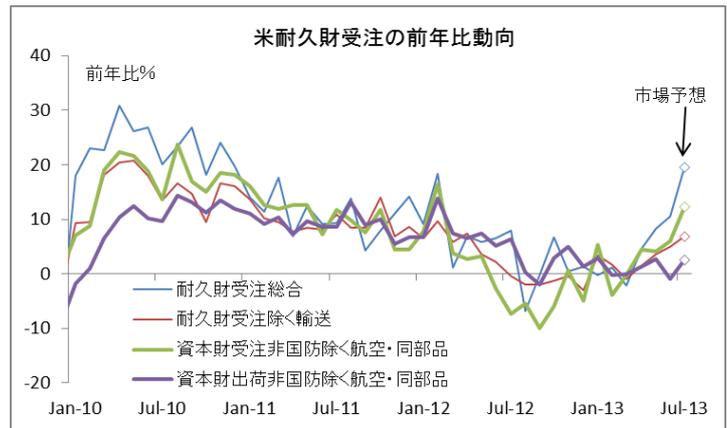
(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅 (%ポイント)。

きょうの「高慢な偏見」：米景気回復シナリオは不変

今週は耐久財、消費者信頼感、2Q GDP 改定値などの米経済指標や Fed 高官発言が多く予定され、9月の資産購入縮小開始シナリオの妥当性を判断するため景気回復の進展につき注目度は高い一方、Fed 高官発言については、Williams サンフランシスコ連銀総裁、Bullard セントルイス連銀総裁など、最近発言が多い総裁ばかりであることから新鮮味のある内容が出てくる可能性は低いだろう。こうした中、本日の相場材料としては、①NZ7月貿易収支(7:45、前月+4.14億 NZドル、市場予想-0.16億 NZドル)、②米7月耐久財受注(21:30、前月-0.1%、市場予想+0.5%、除く輸送用機器、前月比)などしかない。

米耐久財受注で注目されるのは、設備投資の先行指標とされるコア資本財受注(非国防、除く航空・同部品)および GDP 算出に使用されるコア資本財出荷(非国防、除く航空・同部品)で、各々前月比+0.5%/前年比+12.3%、前月比+0.3%/前年比+2.5%と、前月比で見ると目立たないが前年比では非常に高い伸びとなっており、伸び率は高まる傾向にある(右図参照)。このため、前月比で多少市場予想を下回ったとしても前年比での回復基調は揺るがず、従ってドル売りは限定的なものとなるだろう。

ドル/円は5月22日に103.74円の高値を付け、6月に93.79円の戻り安値を付けて以来、上値が切り下がり下値が切り上がる三角保合いの状況にあり、先週金曜は三角保合いの上限であった99円丁度近辺で推移していたところを米新築住宅販売の予想比下振れにより上値が重くなったかたちとなっている。このため、耐久財受注が市場予想を上回れば再び三角保合い上限上抜けを試す機会となる一方、市場予想程度か下回る場合には、99円での上値の重さがより強く意識されるかもしれない。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。